

[認知症対応型共同生活介護用]

調査報告概要表

作成日 平成20年 4月 15日

【評価実施概要】

事業所番号	(※評価機関で記入) 4672800044
法人名	医療法人 誠心会
事業所名	グループホーム あったかハウス市来
所在地	鹿児島県いちき串木野市大里3261番地1 (電 話) 0996-36-5511
評価機関名	特定非営利活動法人福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂本町27-5前田ビル1F
訪問調査日	平成20年4月15日

【情報提供票より】(20 年 5 月 2 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 2 月 10 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 13 人, 非常勤	人, 常勤換算 13 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	16,500 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(期間:退所時)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4)利用者の概要(5 月 2 日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.8 歳	最低	75 歳	最高	92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人誠心会 ゆのもと記念病院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人を母体とし、グループホームとしては法人7番目、開設後4年目のホームである。地域との交流が盛んでホーム内の毎月の行事をパンフレットにして紹介し、地域の方が気軽に立ち寄ってもらえるように工夫した結果、ほぼ毎日家族や地域の方の訪問がある。一方、家族の相談にも積極的に応じられるように仕組みを検討し、ケアプランには本人や家族の希望を大切にしている。具体的な目標が掲げられ、職員全員で意見を出し合い臨機応変に修正が行われている。一人ひとりの暮らしやペースを大切に、利用者の生活を職員が支えるという姿勢が見えるホームである。

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回の外部評価に改善点はなかったが、浴室の手すり設置やポータブルトイレのカバーを作るなど細かい点についても改善を行い、さらにより良いサービスを目指している。
	②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者は毎月のミーティングや申し送りの時に外部評価や自己評価の意義を説明し職員全員の理解を促した。職員も良いケアを提供するために必要なことと受け取り、全員で話し合いながら取り組んでいる。
重点項目	③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2か月に1回家族代表、行政関係者(地域包括支援センター)、公民館長、婦人部長、民生委員などを招いて行われている。意見や提案は会を重ねるごとに活発に出され、それを検討し有意義な会になっている。
重点項目	④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明記するとともに、年1回の家族会や面会の時などに意見などを遠慮なく出してもらえるように声かけが行われている。また、玄関には意見箱も設置し、出された要望は職員全員で改善に向けて話し合い、結果を家族に報告し理解を得ている。
重点項目	⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日頃から近隣の方が野菜などを持ってきたり、お茶を飲んでおしゃべりをしたり気軽な交流を行っている。また、地域の行事に参加したり、当ホームの行事を紹介するリーフレットを作成し、参加しやすい環境を作るなど積極的な取り組みを行っている。

調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、ゆったり、けれどもしっかり」の理念を開設当初から掲げて、一人ひとりのペースを大切にしながらも、介護の基本はしっかりと守ることを念頭に支援を行っている。また、H18年から地域密着型サービスも理念に加えている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	詰所や居間に掲示するとともに、毎朝の申し送り時に理念の唱和を行い、職員全員が共有できるように努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日頃から近隣の方が野菜などを持ってきたり、お茶を飲んでおしゃべりをしたり気軽な交流ができています。また、地域の行事に参加したり、当ホームの行事を紹介するリーフレットを作成し、参加しやすい環境を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	毎月のミーティングや申し送り時に外部評価や自己評価の意義を説明し、全員で取り組んでいる。前回の外部評価に要改善点はなかったが、浴室の手すりなど細かい点についても改善を行った。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行政関係者(地域包括支援センター)や公民館長、婦人部長、民生委員などを招いて行われている。意見や提案が行われ有意義な会になっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸手続きを行うときに福祉その他の関係部署に立ち寄り、情報交換を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホームだよりと一人ひとりの生活の様子を書いた手紙を郵送するとともに、面会や電話など機会をとらえて状況を報告している。金銭管理については面会の時に説明し、確認の押印をもらうか、遠方の家族には郵送し報告している。職員の紹介は面会の時に説明し紹介している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関や入居時の説明書類などに苦情相談窓口を明記するとともに、年1回の家族会や面会の時などに意見などを遠慮なく出してもらえるように声をかけている。また、玄関には意見箱も設置し、出された要望は職員全員で話し合っている。必要と判断したことは運営者へ報告され、結果を家族に報告している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者及び管理者は職員の異動を必要最小限にとどめるように努力をしている。また、やむを得ず異動になる場合には利用者に自己紹介や挨拶を行い、ダメージが少なくなるように配慮している。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画があり、毎月1回グループホームで勉強会を行っている。その他に行政や社会福祉協議会、法人内の研修などにも参加し、ホーム内で伝達を行っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入するとともに、グループホームの見学や介護支援専門員研修で他施設の管理者や職員との交流を図りサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居時に生活をする上で馴染みのものを持ってきてもらう、家族や今まで係わりのある方の訪問をお願いするなどの工夫を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や昔のことを教えてもらうなど、人生の先輩として利用者と接し、支えあう関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者や家族の意向を会話や表情などから把握するように努めていることが管理者や職員から聞き取れた。把握した希望や意向は入居時の記録や見直し時のアセスメント記録に記載し、介護計画や毎日の暮らしに活かされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネジャーは職員会議で本人・家族などやケア担当者とプランについて話し合い、計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	概ね6ヶ月毎に計画の見直しを行っている。また、チェック表にプランのモニタリングが毎日記載され、毎月評価を行い修正の必要性の有無を確認している。軽微な修正はその都度行われ、状況に変化があり、見直しの必要がある時には担当者会議が開かれプランの変更が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療的な観察や支援を必要とする方の入居や入院中の方の早期退院に向けての支援など、医療連携を活かし柔軟な支援を行っている。また、災害時に地域の一時的な避難場所としての協力体制も整えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用開始時に本人や家族と話し合ったうえで、現在主治医はすべて協力医療機関の医師になっている。しかし、心臓疾患など専門的な医療の継続が必要な方は引き続き受診できるように支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	グループホームで取り決めがあり、「看取りに関する指針」は入居時に説明している。また、重度化した時には主治医と家族の話し合いで方向性を決め、家族の納得が得られる対応を行っている。		
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉遣いや語調など日頃より常に気を付け、研修やミーティングで取り上げ注意を促している。また、個人情報の保護方針を入居時に利用者や家族にも説明するとともに、記録物は事務室に保管し職員以外の人の目に触れないようにする等、秘密保持の徹底に気を付けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出や買い物の希望や着る服の希望を聞くなどその人らしい暮らしを応援している。1日の流れも体調や利用者のペースを尊重するようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や食事の準備、後片付けなど、可能な利用者と共に行っている。また、職員も一緒に会話をしながら楽しい雰囲気での食事であり、一人ひとりのペースを大切に、食事の形態を工夫している。介助は、必要最小限にとどめている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は本人の希望に合わせて毎日利用でき、実際毎日入浴している方もいる。また、入浴を拒否される方には、タイミングに合わせて家族の協力ももらいながら気持ちよく入浴してもらえるように工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者のできることを把握し、本人の気持ちを尊重している。郵便・新聞取り、手芸、琴の演奏、メモ紙作りなど様々な機会を見つけ場面作りを工夫している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や利用者の希望に応じて買い物、ドライブ等外出の支援を行っている。また、グループホーム前でのおしゃべりや日向ぼっこなど遠出でなくても外気に当たる機会を持つよう努力している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけない暮らしの大切さを理解しており、玄関などの施錠は夜間以外は行わない。外出傾向のある利用者を把握し、ついて行く、地域の協力を得るなどして自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署と合同で避難訓練が行われ、災害マニュアルも作成されている。災害に備えた備蓄については車で10分以内の法人本部に、非難時の備品も事務室に準備されている。地域との連携は運営推進会議で協力が得られるよう対話が行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師や栄養士との相談のうえ、適切な量が確保できるように支援している。毎日の食事量・飲水量を記録し、健康上の理由で細かいチェックが必要な人については排泄の状態についても把握に努めている。また、体重も毎月測定し記録し健康状態を確認する指標のひとつになっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ガラス窓は広く、室内は明るい。また、換気や臭気には気を配り、小まめに窓の開閉をするなど配慮されている。テーブルやソファを置き、気に入った過ごしやすい空間も提供されている。玄関には近所の方からいただいた季節の花が飾られ立ち寄りやすい雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には仏壇・位牌・家族の写真などとともに使い慣れたものが持ち込まれ、居心地良く過ごせるようにしている。		